

## 21. 「不知火」の早期減酸タイプ新品種「安芸の輝き」を品種登録申請

### 1. 背景とねらい

広島県は瀬戸内海の温暖な気候に恵まれ、中晩柑類の栽培が盛んであり、「不知火」も栽培されているが、降水量が少ないために減酸が遅延し、日照不足で糖度が上がりにくく、越冬栽培で対応している。

そこで、珠心胚育種法を用いて、「不知火」より減酸が早い新品種を育成する。

### 2. 成果の内容

- 1) 「安芸の輝き」は、2001年に「不知火」の珠心胚実生から選抜し、外観は「不知火」と同じである（図1, 2）。
- 2) 果実の大きさは「不知火」とほぼ同程度である（表1）。
- 3) 1月中旬～2月上旬の糖度は「不知火」に比べて平均0.9° Brix低いが、クエン酸含量は0.33%低いため、糖酸比が高く食味がよい（表1）。
- 4) 以上の結果より、「安芸の輝き」は「不知火」より、減酸が早く、1月下旬以降に食味良好となるカンキツ新品種である。

### 3. 利用上の留意点

- 1) 増殖は高接ぎで行うと、ウイルス・ウイロイドの感染の恐れがあるため、苗木により行う。
- 2) ウンシュウミカン栽培適地より土壌の保水性がよい園地で栽培する。なお、果実肥大と減酸を促すために、夏期にかん水を行うことが望ましい。
- 3) 2006年11月10日に品種登録出願を行ない、受理された。

（果樹研究部）

#### 4. 具体的データ

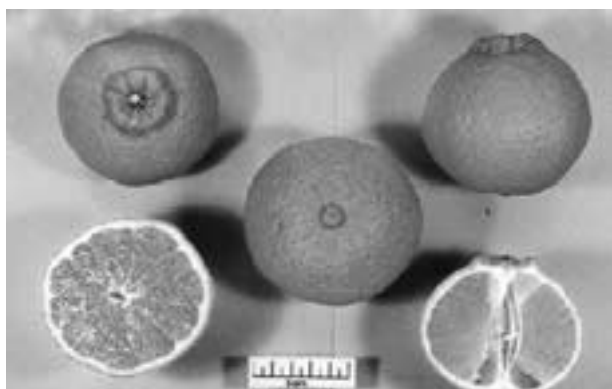


図1 「安芸の輝き」の果実



図2 「安芸の輝き」の着果状況

表1 「安芸の輝き」の果実形質 (果樹研究部, 2001~2003年)

系統・品種	分析年月日 (年. 月. 日)	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸 含量(%)	糖酸比 (糖度/クエン酸)
安芸の輝き	2001. 1. 15	246	12.3	1.32	9.3
	2002. 2. 04	262	13.0	1.02	12.8
	2003. 2. 04	269	15.0	1.33	11.3
	平均	259	13.4	1.22	11.1
不知火 (対照)	2001. 1. 15	262	12.9	1.59	8.1
	2002. 2. 04	192	14.3	1.30	11.0
	2003. 2. 04	220	15.6	1.76	8.9
	平均	225	14.3	1.55	9.3